

2022年10月25日（火）

令和4年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業 研修会

知ろう学ぼう考えよう～大学図書館の研究データ管理・公開支援～

RDM支援に関する取り組み事例の報告

- 広報について -

オープンサイエンスプロジェクトチーム 広報サブチーム
名古屋大学附属図書館 東山地区図書課 西地区図書統括グループ
大野尚子

今日、お話しすること

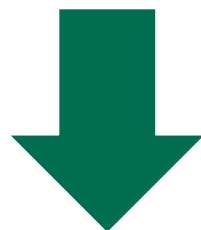
- 1、広報STについて
- 2、成果①OS支援サイト
- 3、成果②構成員向けガイダンス
- 4、まとめ

1. 広報STについて

名古屋大学附属図書館OSPT/広報STの取り組み

大学からのミッション

名古屋大学学術データポリシーに基づき、「学術データの管理、公開、利活用の**啓発**」に関する施策を図書館で実施して欲しい



広報STメンバー

● 図書館として・・・

- まずは研究データ管理の重要性と大学の研究データ管理サービスを大学構成員に知ってもらおう！
 - ✓ 広報サイトの立ち上げ、パンフレット・リーフレット類の作成
 - ✓ 構成員向け啓発プログラムの検討と実施

2.成果①オープンサイエンス支援サイト

オープンサイエンス支援サイト

<https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/index.html>

2021年12月22日公開

The screenshot shows the Nagoya University Library website. The header includes the library name and navigation options. A red circle highlights the 'オープンサイエンス・オープンアクセス支援' (Open Science Open Access Support) link in the left sidebar. A red arrow points from this link to the right-hand page.

The landing page features a green background with the title '名古屋大学附属図書館 オープンサイエンス・オープンアクセス 支援' (Nagoya University Library Open Science Open Access Support). Below the title, it states: '名古屋大学附属図書館では、論文や研究データの公開などを通し、オープンサイエンスの推進を支援しています。このサイトでは、オープンアクセスに関する知識や、研究データ公開のための情報を紹介します。' (The Nagoya University Library supports the promotion of open science through the publication of papers and research data. On this site, we introduce knowledge and information related to open access, such as for the publication of research data.)

The page includes a navigation menu at the top: 概要 (Overview), 研究データ公開支援体制 (Research Data Open Access Support System), 参考資料 (Reference Materials), 学術データポリシー (Academic Data Policy), オープンアクセスポリシー (Open Access Policy), ハグタカジャーナル注意喚起 (Hagataka Journal Notice), お問い合わせ (Contact Us).

The main content area is divided into sections: '概要' (Overview) with a globe icon, and 'オープンサイエンスとは' (What is Open Science) with a speaker icon. The text under 'オープンサイエンスとは' reads: 'オープンサイエンスとは、社会に広く開かれた研究活動のことを指し、世界的に広まっている動きです。論文のインターネット無料公開（オープンアクセス）から始まり、研究' (Open science refers to research activities that are open to society, a movement that is spreading worldwide. It starts with the free internet publication of papers (open access) and research).

アップデート履歴

- 英語版サイト 作成・公開
- 「1分でわかる！研究データリポジトリ登録」作成・公開
 - https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/oap/os/assets/registering_data_flyer_20220822.pdf
- イントロダクション動画 作成・公開
- オンライン教材情報 追加

3.成果②構成員向けガイダンス

実施までの道のり

4-5月

5月20日付

随時

実施方法検討

企画文書作成

部局へ周知

開催予約受付



内容検討・説明資料作成

実施状況

*1：概数。オンラインの場合、Web会議システム内で表示される「参加者」数から図書館側の参加者を引いた数。

*2：FD実施前に対面で教授会が実施されており、オンサイトでの聴講者もいた可能性があるが不明。

実施日	部局名	実施方法	聴講者数*1
6/1	環境学研究科	オンライン (Teams)	95
6/15	医学系研究科 (総合保健学専攻)	オンライン (Teams)	64*2
6/22	国際開発研究科	対面	22
6/22	未来材料・システム研究所	オンライン (Teams)	15
6/30	ITbM	オンライン (Zoom・英語)	20
7/6	医学系研究科 (医科学専攻)	オンライン (Teams)	60
7/13	経済学研究科	オンライン (Zoom)	28
7/13	教育発達科学研究科	オンライン (Teams)	48
7/20	生命農学研究科	オンライン (Teams)	86
7/20	情報学研究科	オンライン (Teams)	81
7/20	人文学研究科	オンライン (Teams)	86
7/27	宇宙地球環境研究所	オンライン (Zoom)	36
9/7	法学研究科	オンライン (Zoom)	54
10/19	多元数理科学研究科	オンライン (Zoom)	47
10/21	環境医学研究所	オンライン (Teams)	36
		合計	778

実施後アンケート回答

- 名古屋大学学術データポリシーを知っていましたか？
(n=123)



● はい / Yes 57
● いいえ / No 66

- 名古屋大学附属図書館オープンサイエンス・オープンアクセス支援ページを知っていましたか？
(n=123)



● はい / Yes 23
● いいえ / No 100

研究者からの主なご質問①ーリポジトリ関係

質問	図書館の回答
機関リポジトリを利用できる人や範囲は？	名古屋大学に在籍または在籍したことがある人などが対象です。詳しくは「名古屋大学学術機関リポジトリ要項」をご参照ください。 https://nagoya.repo.nii.ac.jp/widget/uploaded/yoko_20210312_re.pdf/Root Index
公開されているデータは誰でもダウンロードして利用できるのか。	そうなります。二次利用の可否などはライセンスを付与することで公開する際に指定できます。
リポジトリに登録できる最大容量はどのくらいか。また、その最大容量は一人当たりの上限容量か、論文一本当たりの容量か。	150MB程度なら大丈夫です。この制限は、1データあたりのサイズになります。サイズの大きいものを登録したいときには事前にご相談ください。（350MBまでなら実績あり）
実際に研究データを公開すると言っても、具体的に何（生データ？解析に使用したExcel表？それとも発表した論文？）を公開したらよいのか。	何を公開するかは、研究者が決めることになります。ただし、今回の話の対象は、発表された研究成果の根拠となる研究データには限りません（研究公正の文脈での保存に関する規程類で言う、必ず保存しなくてはならない「研究データ」よりも範囲が広いものです）。
実験ノート等、大容量であるがこういうものも公開できるのか。	はい。研究過程のデータ等も対象としていただけます。容量が大きい場合もリポジトリには情報のみ登録して実データ格納場所を示すような登録もできます。
論文や教科書などは今回説明された内容の対象に含まれるのか。	はい、論文や教材も「学術データ」に含まれます。

研究者からの主なご質問②ーポリシー関係

質問	図書館の回答
学術データポリシーはあくまでポリシーであって、義務ではなく、推奨レベルであるという理解でよいか。	はい。データを公開することでメリットもあるのでぜひ検討ください。
名大の学術データポリシーと、共同研究者が所属する他の機関や科研費等のポリシーが対立していた時はどうしたらいいか。	科研費等の基準のほうが名大のポリシーには優先するとお考え下さい。また、名大のポリシーでは、データを公開するかどうか決める主体は研究者本人となっておりますので、他の共著者等が公開に同意しないときは、そちらに従っていただいてもかまいません。
科研費のDMPでは具体的に何が求められるのか。	DMPは、研究者がデータをどのように管理し、保存し、公開するかどうかの予定かを書くものです。データを必ず公開しなくてはならない、というものではありません。
学術データポリシーでは、どこで公開するかは研究者の判断に任せるという理解でよいか。	その通りです。

研究者からの主なご質問③ーDOI関係

質問	図書館の回答
DOIとhandleは何が違うのか。	handleとDOIは発行している機関が異なります。どちらも基本的に永続アクセスを保証するものですが、どちらかというとうとDOIの方が汎用性が高く対応しているサービスが多いです。
リポジトリに登録する際にhandleとDOIのどちらをつけるかを選択できるか。	基本的に、全件handleが付与されます。DOIは希望すればつけることができます。（場合によってはできないケースもありますのでご相談ください。）
データセットをリポジトリで登録・公開する際、DOIをつけてもらうことは可能か？また、ライセンス情報なども記載可能か？	可能です。ただDOIには種類があり、データに特化したDataciteのDOIは有料になるため対応しておらず、ジャパンリンクセンターの汎用的なDOIをつけることができます。また、各種権利設定にも対応可能です。

研究者からの主なご質問④ーGakuNin RDM関係

質問	図書館の回答
<p>GakuNin RDMに研究中的数据を掲載することに関して、機密性の点で問題ないのか。</p>	<p>機密性の観点では、研究データについても情報格付けに従った取り扱いが求められ、研究中的数据の機密性により異なります。</p> <p>https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/security/THERS_jouhoukaku_kijyun.pdf</p> <p>GakuNin RDMについては、研究データ保存（掲載）に使用するストレージをいくつかの候補から選択できるようになっております。そのため、研究データの保存・掲載と機密性についての関係では、GakuNin RDMそのものではなく、GakuNin RDMで使用するストレージの仕様により機密性に沿う取り扱いができるかどうか異なります。</p> <p>GakuNin RDMで使用するのがクラウドストレージであれば、名古屋大学クラウドサービス利用ガイドラインに従って、研究データを取り扱っていただくようお願いいたします。</p> <p>https://icts.nagoya-u.ac.jp/nu-only/ja/security/Cloud-Service.html</p>
<p>GakuNin RDMの特徴や使用感、GitHubなど既存サービスとの違いが知りたい。できれば具体的な使用事例を聞きたい。</p>	<p>GakuNin RDMは、本格稼働してからまだ間もなく、現時点での使用率は大変低いため、学術データ管理における具体的な事例はありません。学術データではありませんが、図書館職員が他大学との共同WGで利用している例、情報基盤センターの教員がGakuNin RDMの名大版マニュアルを作成する際に使用した例があり、その使用感としては、複数人によるプロジェクトのファイル管理（同じ名前でファイルをアップロードすると自動的にバージョン管理されます）、進捗管理、データ管理をスムーズに行うことができている、とのこと。</p> <p>GitHub等の既存サービスとの違いは、主に以下の点が挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none">・GakuNin/機構の認証があって、安全性が高い。・GakuNinを利用可能な他機関とファイルを共有できる。（反面、GakuNin未導入の他機関とは共同利用不可）・データ公開、データマネジメントプラン、研究公正のためのタイムスタンプを付けられるなど、国内の研究データの取り扱いの施策に則ったデータ管理ができる（一部開発中）。 <p>操作は難しいものではございませんので、詳細は国立情報学研究所のマニュアル等をご参照いただき、ぜひ実際にお試しください。お気づきの点はまた図書館までお知らせいただければ、担当部署と共有します。</p>

4. まとめ

やってみて&これから

図書館のサービスとしての
認知度向上ができた！

広報活動はまだ初期段階
やれることから手広くやっていく

前向きな感想やお褒めの
言葉をいただきモチベー
ションがあがる

研究データの登録依頼は
それほど増えていない…

説明会や講習会は継続して
行っていくことが求められている

ご意見を次年度以降の企画や
サイト更新に反映して
ブラッシュアップしたい

まだまだ勉強しないと
いけないことがたくさんある

